

宗谷管内漁業士会報



舵

【宗谷管内漁業士会事務局】

宗谷支庁経済部水産課漁業振興係
〒097-8558 稚内市末広4丁目2番27号
TEL: 0162-33-2510 (内線2645)
FAX: 0162-33-2632

第 4 号

平成15年 5月30日

平成14年度宗谷管内漁業士会総会開催

去る平成15年2月18日、稚内市水産ビル5階会議室において、平成14年度宗谷管内漁業士会総会を開催しました。

- 議事(1) 平成14年度事業報告及び決算報告
- 議事(2) 平成15年度事業計画(案)及び収支予算(案)
- 議事(3) 任期満了に伴う役員改選について
- 議事(4) その他

【平成15年度事業計画について】

自己研鑽及び管内漁業士間の連携はもちろんのこと、他地区の漁業士との交流を深め、連携を密にすることを目的に「各種会議、行事等への積極的参加」を中心に事業を実施していきます。

また、管内漁協青年部連絡協議会との連携や水産指導所が実施する各種普及事業への協力を行っていきます。

【任期満了に伴う役員改選について】

改選結果

- 会 長 河島 隆八 (頓別)
- 副会長 道場 博文 (船泊)
- 〃 本沢日出夫 (猿払)
- 幹事長 本沢日出夫：兼任
- 監 事 神成 一夫 (鴛泊)
- 監 事 戸田 吉和 (枝幸)



【その他】

平成15年度の定例会は9月から10月頃に稚内市内で開催。販路拡大等の内容で講演者を招くことが決定しました。

漁 業 士 通 信

●漁業士の認定について

平成15年1月24日の新規認定漁業士称号授与式において枝幸漁業協同組合の伊藤章英氏が指導漁業士として鬼脇漁業協同組合の上田隆司氏が青年漁業士として認定されました。

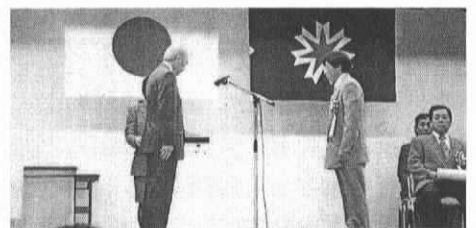


枝幸漁協所属 伊藤指導漁業士

●漁業士の任期終了について

平成14年度に次の4名の方が漁業士の任期終了となりました。長期間に渡る漁業士としてのご活躍に心からお礼申し上げます。

- ・ 枝幸漁協所属 西指導漁業士
- ・ 稚内漁協所属 岡部指導漁業士
- ・ 鬼脇漁協所属 網谷指導漁業士
- ・ 香深漁協所属 三上指導漁業士



鬼脇漁協所属 上田青年漁業士

平成14年度宗谷管内漁業士会活動報告

◎漁業生産技術研修会開催

平成14年10月8日利尻町「どんと」において、利尻地区漁業士連絡協議会主催で漁業生産技術研修会を開催しました。

研修会には、利尻島内の漁業士5名と漁業者及び関係者等50余名が参加しました。

研修会では北海道立稚内水産試験場資源増殖部資源増殖科長赤池章一氏による講義「演題(利尻島周辺における海洋環境について)」と同研究職員瀧谷明朗氏による講義「演題(マダラこんぶ実態調査について)」を行いました。

午後6時からと夜遅い開催時間ではありましたが、参加者全員が真剣に受講し、活発な質疑や意見交換が行われました。



◎宗谷管内漁業士会定例会開催

平成14年9月28日稚内水産ビルにおいて、宗谷管内漁業士会定例会を開催し、管内の漁業士6名が出席しました。

議題では、会報誌「舵」の掲載内容や、川湯で開催される北海道漁業士会オホーツク・太平洋会議への参加等について、確認されました。

また、本年度予定している道外視察研修について、視察内容や視察先、日程等について検討しました。視察先は岩手県又は宮城県を候補とし、衛生管理への取組と視察先で行われている養殖業の現状等を視察内容とすることで決定しました。

日程については、1月下旬に札幌市で開催される平成14年度北海道漁業士研修大会に参加した後、翌日に出発し、2泊3日の行程とすることで決定しました。(視察結果については3ページ参照)

研修会終了後の懇親会では、漁業士同士の情報交換等で大いに盛り上がりました。



◎第7回北海道漁業士会オホーツク・太平洋会議に出席して

頓別漁業協同組合青年漁業士 新川 宗孝

根室管内漁業士会会長の挨拶に始まり講演へと……。

講師は水産庁増殖推進部研究指導課課長補佐の加藤久雄氏による演題「水産業の健全な発表～効率的、安定的な漁業経営を目指して」である。基調講演としてさっぽろ東急百貨店統括マネージャーの山田泰弘氏による「水産物を見る消費者の眼」と水産庁増殖推進部栽培増殖課課長補佐の田口博人氏による「水産物の安全性確保について」又、今大会のパネルディスカッションのテーマ「水産物の鮮度保持について～価格向上と品質向上のために～」と題して行われました。講演とディスカッションに共通する課題はこれからの漁業経営の難しさと水産業に対する未来、これを考えていく上で何をすべきか、漁業者がもっと積極的に水産物を売るためには何をしなければならないのか、それは、消費者の立場になり、その新鮮さ、美味しさ、見た目、安全、安心、価格に至るまで消費者との意見交換をしてこれらの問題をクリアし漁業者が自信を持つことが海からあげた物を無駄にしないで、どう付加価値を付けるかが漁業者のこれからの道ではないのか。このような考えをもち水産物を売ることにより漁業者の効率的、安全な漁業経営が成り立つのではないかと……良心的な漁業者であることの大切さをもう一度考えてみよう。その後、交流会においては、漁業士、関係者との情報交換、親睦が深夜まで続き有意義な大会で会議は終わった。



平成14年度 宗谷管内 漁業士会道外視察参加報告

杓形漁業協同組合

青年漁業士 能村 勝洋

日程：平成15年1月23日～25日

視察先：岩手県宮古市、田老町、大船渡市、花巻市

参加者：河島 隆八(頓別)、奈良 満(宗谷)、
本沢日出夫(猿払)、佐々木 修(鴛泊)、
町村 孝司(仙法志)、能村 勝洋(杓形)、
一ノ瀬寛之(稚内水指)、武蔵 悟一(宗谷支庁)
計8名

1月23日

○宮古市魚市場視察

宮古市魚市場におけるHACCP方式導入等の

徹底した衛生管理の取り組み内容について】

病原大腸菌(O-157)及びサルモネラ菌等の食中毒多発を基に生産者から流通・加工までの関係者が一体となり、安全対策を検討しHACCPに取り組むこととなった。

しかし、平成6年度から7年度にかけて市場を新設したことにより、実質、ハード面によるHACCP対応は予算的・施設の構造的に困難なことが判明した。そのため、当面は、ソフト面によるHACCP対応に努めていくこととなった。

具体的には、市場職員や魚市場関係者を対象とした研修会を徹底して行い、漁獲物の床直置きを禁止しマカゴ等により漁獲物を市場内に陳列している。

取組重点項目を8項目掲げ、関係者が一丸となって取り組んでいる。

1. 卸売場内への入場車両立ち入り禁止
2. 休場日の卸売場内立ち入り禁止
3. 市場での禁煙について
4. 市場内外での放タン、飲食、ゴミの投捨てはしない
5. 魚介類の床直置き改善
6. トイレから出るときは、必ず手を洗うこと
7. 卸売場内への入場の際は、履物を消毒(消毒槽使用)
8. 5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)の啓発徹底

関係者等により衛生に対する意識格差が大きいため、

今後も監視、指導が必要とのことでした。

○岩手県漁業士会宮古支部との懇談

【両漁業士会における活動内容等についての意見交換会】

岩手県漁業士会宮古支部、会員23名のうち女性漁業者

が1名いる。

活動内容としては、主に早取わかめのPR事業となっており、他に「いわて少年海づくり大会への参加」、「農業士や指導林家との交流会」等を行っている。

早取わかめに関して、東京都ビックサイトで開催されるシーフードショーへの出店、岩手県からの委託事業として、生わかめブランド化支援事業等を実施している。

早取わかめについては、当初、漁師宅のみの食材であったが、わかめが全般的に価格安となっていることが、製品化するキッカケとなった。

このわかめ製品については「春いちばん」を命名し、春野菜に近い柔らかくシャキシャキした食感が売りであり、昨年からの出荷を開始、初年度は2トンの出荷であったが、2年目となる本年度は約17トンの出荷を計画している。出荷時期は1月中旬から3月中旬までの限定出荷となっている。

1月24日

○田老町漁業協同組合

【わかめ養殖業の現状について】

過去5ヶ年平均の漁協の総生産額1,724百万円のうち、養殖わかめが占める割合は、12.5%で、主要魚種は、天然あわび25%、秋さけ24%、養殖こんぶ21%となっている。

養殖わかめは、漁協の全量買取方式を行っており、漁協の自営加工場で塩蔵わかめとして商品化しているが、最近では中国からの輸入製品が増えてきており、競合している。中国製品は400g入り198円と安値のため、漁協製品は平成13年度に200g入り398円で販売したが、平成14年度には200g入り198円に値下げした。また、パッケージを漁業者の顔入りにデザインを替えたところ、売り上げが前年比7%伸びた。売り先は、主にイトーヨーカドーや東北6県の生協となっている。

しかし、着業者の高齢化や減少が進んでいることが、今後の課題とのことでした。

研修後、漁協所有のあわび種苗生産施設を視察しました。

○大船渡ジーアールピー(造船所)を視察しました。

1月25日

○花巻市内

【水産物売場の視察】

北海道産の水産物は主にたらの切り身製品が多く、他にはほたて玉冷があったが、全体に占める割合は非常に少なく、輸入製品が全体的に多かったです。



